

3. 古文書からデジタルデータベースまで

高橋 美由紀（麗澤大学非常勤講師）

ただ今ご紹介いただきました高橋です。麗澤大学の国際経済学部で非常勤講師をしています。2006年に、本日のシンポジウム会場であるこのきれいな建物が建ちました。ここは、麗澤の生涯教育プラザで、社会人向けに講座をたくさん開設しています。本日おいでいただいた中には、私がそこで古文書を教えさせていただいている方もいらっしゃると思います。

さて、私が話すのは「古文書からデジタルデータベースまで」です。速水先生が麗澤大学に、この夏寄贈された史料を、今後いかにして黒須先生のもとで使っていくかということです。皆さんに、「この史料からこのようなことが分かるのだ」、「このように加工するのだ」ということを、申し上げたいと思っています。

展示はもうご覧いただきましたでしょうか？ 入口を入って右側のところが展示会場になっております。「ああ、もう随分前に見たよ」という方もいらっしゃるかと思うのですが、私の報告は、その展示会場に貼ってある写真や図の説明です。

例えば、速水先生が、先ほど「宗門（改）帳あるいは人別（改）帳というのは、世界の中でも本当にまれに見る良い史料なのだよ」と言われたわけですが、では、その史料をどのようにして今日的な研究に使用するのか。つまり、どのようなことかといいますと、宗門帳を用いた研究というのは、個々の地域ではすでに、もうかなり前から存在します。例えば人数を数えて、「この人口はどのくらいだったのかな」という話はあったわけです。それが「歴史人口学」という名前になるには、速水先生がFRFという話をされましたけれども、統計的な処理ですとか、そのようなことをしなければいけないわけです。

どのようにするのか。スライド1をご覧ください。まず、史料調査。これは、速水先生がかなりやっつけてくださっていますので、今は、欠けているところで、どこかに史料がないかなということはあると思いますが、それほど力を入れてはおりません。その次は、撮影です。速水先生が、この間も「新しい史料が見つかった」と言われていたように、新しい史料が見つかることもあります。史料は、研究にとって命といえます。

史料を調査して、撮影する、この手順というのは意外と大変です。意外と大変というのは、歴史関係をおやりの方は、もちろん重々承知していらっしゃると思うのですが、
「史料がありました」、では、す

1. 史料調査
2. 史料撮影
3. 古文書解読→基礎シート（BDS）作成
4. 宗門帳入力プログラムを使ってデータを入力
5. データベース作成
 1. 長期時系列データ（XAVIER など）
 2. 単年度データ（RYOMA など）
6. 統計処理を経て、さまざまな人口指標を算出

スライド1 作業の流れ

ぐに自分がそれを使えるかという、そのようなことはありません。その史料を持っているところがどのようなところか、ということも重要です。

そのようなことを追って説明していきたいと思います。まず、史料調査をして、撮影して、古文書を解読します。この古文書を読むというのを、私は、麗澤大学オープンカレッジ（ROCK）の講座で、現在教えさせていただいて、読むのだけでも四苦八苦しているところもあるわけです。読みまして、基礎データシート——「Basic Data Sheet (BDS)」と呼んでいます——に書き取っていきます。私たちの研究チームでは「Basic Data Sheet」というと、「ああ、BDSね」という感じで通っています。

このBDSは、速水先生が開発された時刻表形式のシートです。史料は基本的には年度ごとに作成される、すなわち単年のデータですが、それを、順を追って見るができるというシートです。それで、このBDSができましたら、入力プログラムを使って、コンピューターにインプットしていきます。それから、共同で利用できるようにデータベースを作ります。

データベースには、人が生まれてから死ぬまで、「生まれた、1歳、2歳、3歳、4歳、養子に行った、帰ってきた、嫁に行った、奉公に行った」ということが、ずっと追える長期時系列データと、1年しか分からないのだけれども、かなりの地域にわたって残されているので、地域差が分かるという横断面的なデータベースがございます。このようなデータベースを用いまして、さらに統計ソフトや、最近開発されているいろいろな人口学的方法を使いまして、人口指標を作っていくということになります。

スライド2の宗門改めの図は、展示では、シーボルトの本のところでご覧いただいたかと思うのですが、これは九州の話ですから、かなり厳格に調査されているわけです。1人1人が絵踏みをして、「自分がちゃんという」、「何歳のだれ」というようなことが、毎年毎年書き上げられるわけです。人口史料といいますといろいろな史料がありますが、私たちが中心に使っているのは、人別（改）帳あるいは宗門（改）帳と言われる史料です。そのほかに、最近、それだけではかなり不備があるということで、過去帳、出生書上、それだけではやはり状況が分かりませんから、地域の社会的状況を知る史料というものも使われています。そして、1人の研究者がすべてをするというのはとても無理なので、共同でチームを組んでやっています。

では、史料はどこにあるのだろうかということ、先ほども少し申しましたが、かつては地域の旧家に出かけていったわけです。そ

- **どんな史料が使えるか？**
 - － 人別改帳・宗門改帳
 - － 過去帳・出生書上
 - － その他・地域の社会状況を知る史料
- **史料はどこにあるか？**
 - － 地域の旧家
 - － 各地域の史料館



宗門改め

スライド2 史料調査

の後に、いろいろ地域の史料館で史料を集めているところをございまして、そのようなところをお願いをしまして撮影させていただく、あるいは写させていただくということになります。

それで史料調査が済みましたら、次は撮影です。撮影は、どのようにして行われるのか。スライド3は、マイクロフィルムを使って撮影をしているところです。マイクロフィルムの撮影器具はかなり重いので、持ち運ぶだけでもすごく大変です。実は、時々、「マイクロフィルムとは何ですか？」という質問がありますが、マイクロフィルムというのはスライド3の下に示したものです。かつては、と申しますか、今でもだと思のですが、100年ですとか、かなり長期の保存が効きますので、貴重な史料を残しておけます。また、貴重な史料を各自が手に取って見てしまいますと、史料がぼろぼろになってしまいますから、このようなフィルムに収めまして、各研究者、あるいは本当に史料を読みたい人が、すぐに使えるような形にするということになります。

今回、麗澤大学のアーカイブに入りましたマイクロフィルムというのも、かなりの数に上りますが、そのスライドをお見せする前に、最近はそのマイクロフィルムに加えて、デジタルカメラの機能がかなり進んできていますので、デジタルカメラでの撮影でもいいのではないかという考えが、あります。確かに解像度もかなり良くなってきておりますし、簡単に持ち運びができるということから、デジタルカメラも使われるようになっていきます。

マイクロフィルムとして、現在アーカイブにあるのは、一体どのくらいの数なのかというのが、スライド4になります。ご覧いただくと、長野県というか、「信濃の国が中心なのか？」と思われる方もいらっしゃるかと思うのですが、決してそのようなことはありません。これは村が1,247



35mmマイクロフィルム 16mmマイクロフィルム

スライド3

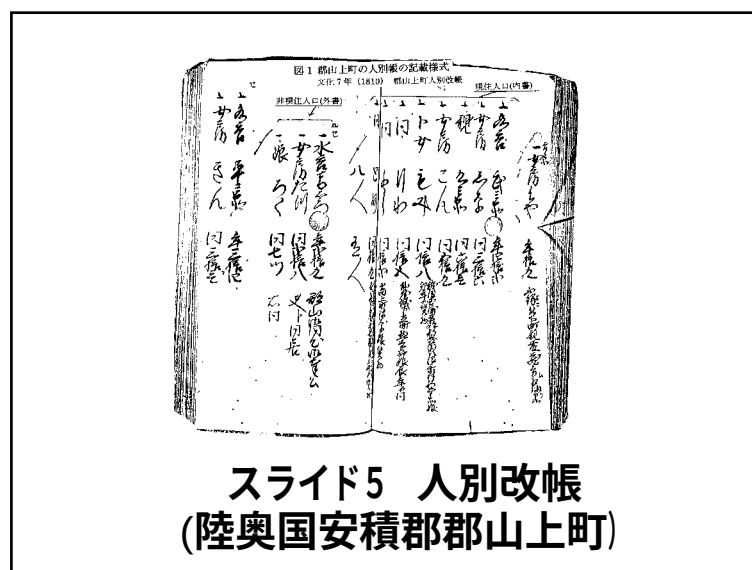
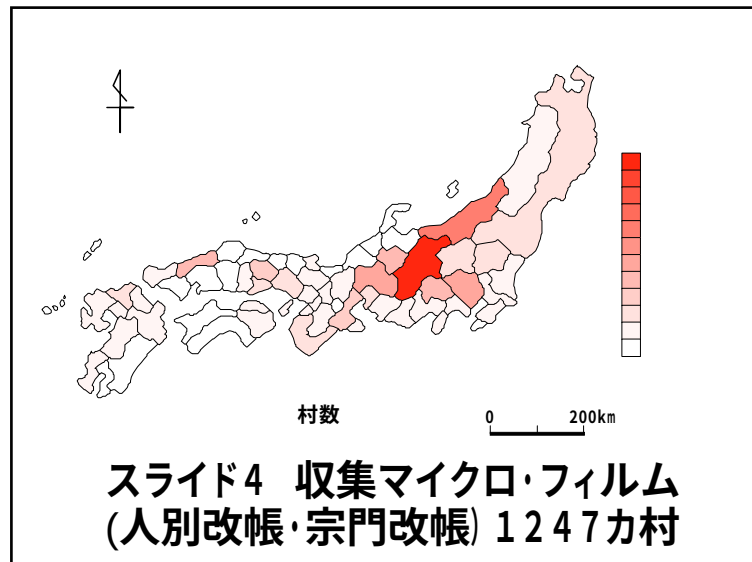
マイクロフィルムでの撮影とマイクロフィルム
マイクロフィルムの写真は、

<http://www.asahi-net.or.jp/~ax2s-kmtm/film/microfilm.ht>

か村ということで、村数単位の記載になっています。ですから、先ほど時系列的に残っている、つまり毎年毎年 100 年以上、あるいは 150 年以上にわたって史料が残っているようなところというのも、実は 1 か村になっています。そういったことを考えますと、例えば、この福島県や岐阜県のあたり、あるいは、今日この後、浜野先生にご報告いただく京都も幾年か分の史料が出てきているわけです。それから長期時系列分析に耐えるという話では、長崎の野母の史料も、かなり優れています。これは集められた史料ですから、ほかにもあるかもしれません。「このようなのがあった」というような情報がまたあるとうれしいわけです。

次に、史料の具体例です。どのようなものなのかというのが、スライド 5 になります。人別改帳、これは、私がよく使っています^{むつ のくに あきかぐん}陸奥国安積郡郡山上町の人別改帳の例です。ここですと、「水呑がいて、女房がいて、親がいて、女房がいて、下女がいて」というような家族構成です。家族といいましても下女がいるわけですから、世帯構成といったほうがいいですね。それが書かれているわけです。それから年齢です。42 であるとか 36、61、59 というように書かれています。そして、下女に関してはどこから来たのか、これはちょっと見えないのですが、でも、「越後国蒲原郡」とか、多分書いてあるのです。つまり、奉公人はどこからやって来ているのかということが書いてあります。

また、これは水呑という例なのですが、そのほかに持高がある家に関しましては、「持高が何石何斗何升ある」というような例が出てまいります。また、スライド 5 で他の世帯より少し下に記載されているのは、「今はいない。どこ



かへ出ていった」ということです。「郡山御同心御奉公」と書いてあります。「夫と一緒に
行っている」というような話を書いてあります。ですから、現在住んでいるかいのないのか
がこれで分かります。奉公に出ていっていない人が分かります。そして、この人は水呑で
すから無高ですが、持高があれば経済指標として使うことも可能であるという史料です。

この史料を解読して、次にデータベースを作るという話です。スライド6が、先ほど説
明させていただきました基礎シート、BDSです。この話を聞いていただいている方の中
には、一緒に共同研究をされている方がかなりおいでなので、「もう、このようなことは分
かっているよ」というむきもあるかもしれません。基本的には、マイクロフィルムはマイ
クロフィルムリーダーという機械でないと読むことができません。もっとも、このよう
にして手で読んでいる人もいらっしゃいますけれども、なかなか読みにくいので、普通はこ
のような機械を使って読みます。機械を使って読むのですが、これだと作業効率が悪いの
で、さらに、これを紙焼き（プリントアウト）しまして、製本して使っています。です
から、この紙焼きした史料というのかなり冊数、こちらにございます。

この史料を使いましてBDSを作成するわけです。単年度の史料ですと、先ほどご覧
いただいたように、「何歳の人が出て、奥さんがいて、下女がいて」というようなことは分か
るわけですが、それが時系列的な、つまり「何歳のときに、どうして」というような情報
とはなっていませんので、このように時系列的にも分かるように個人、これは「家番号59」
と書いてありますが、家ごとのシートにいたします。こうすることによって、ある個人が
生まれてから死ぬまでというのが、本当にずっとたどれるということになるわけです。



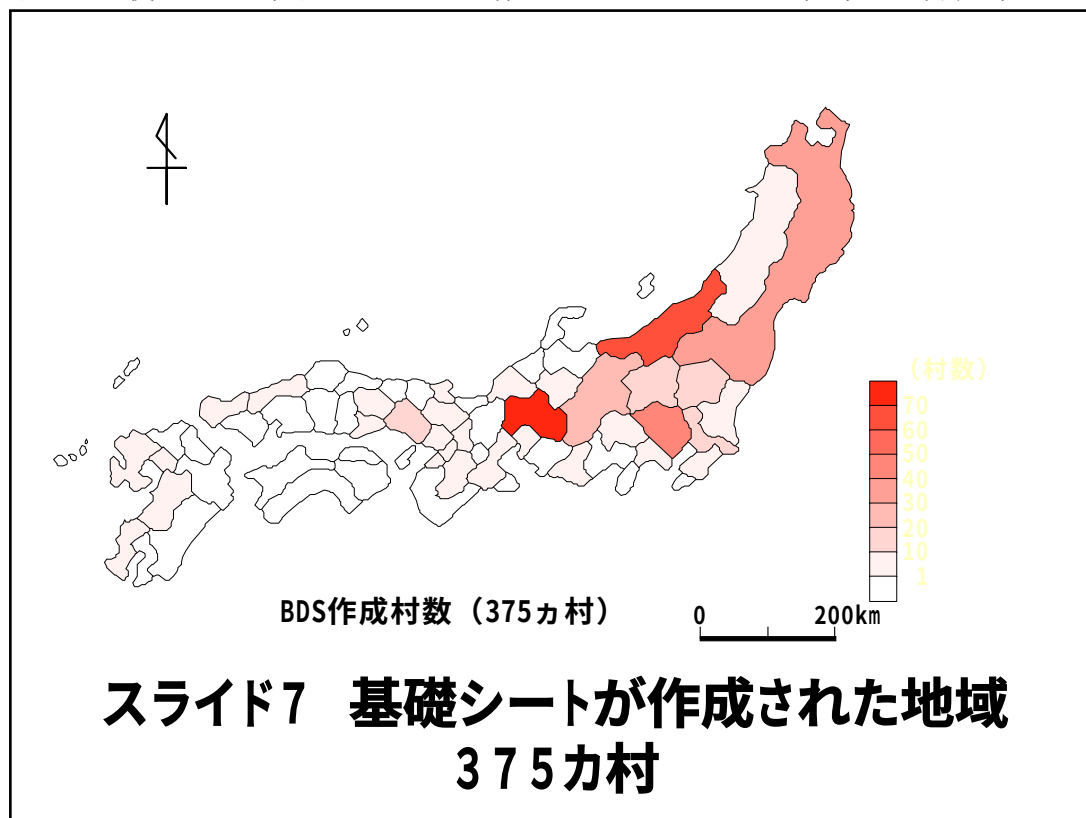
スライド6 古文書解読と基礎シート

これは、本当にすごいことなのです。すごいことというのは、例えば研究者も史料に書かれている人と同じ人間ですから、1人の人が生まれてから死んでいくまでというのが追えるなどということはなかなかありません。現代の資料でできるかという、これは個人情報問題もございますけれども、現在、本当に一生、ライフコースをたどった研究をするというのは、かなり難しいわけです。ですから、そのような意味でも歴史資料で、このような細かい情報まで分かるというのは、本当にすごいことです。さらに、この史料は、奉公に行ったことですか、生まれたことですか死んだこととか、いろいろなことが書いてあるというわけです。

そして、スライド7が、BDSの作成された地域の図です。このようなシートが作成された村や町が、現在375か町村です。この新潟（越後国）は、かなり村がありますので多くなっています。ですから、本当に、どこの地域が史料として優れているかということを考えるためには、村の数だけではなくて、年数を掛け合わせて考えたほうがよろしいのかもしれない。とりあえず、375か村分が基礎シートになっています。

基礎シートを作りまして、スライド8のようにしまして、コンピューターにデータとして入力いたします。データ入力、いろいろな入力方法というのが考えられていまして、何が一番良いのかというのはかなり難しいです。

つまり、どのようなことかと申しますと、現在のデータでしたら、きちんと項目を作ってデータが作れるわけですが、データベースにするなどということが全く考えられていないデータを使いまして、データベースを作っていくわけですから、時には年齢が、ある年





スライド8 宗門帳プログラムからの データ入力

宗門帳入力(日文研) プログラム

史料年: 嘉永 5年(1852年) 壬子 宗番号: 11 忠吉

村役: 持高

個人番号	性別	名前	年齢	補注
1-001	家主	忠吉	16	
2-002	忠吉次男	たか	16	
3-003	忠吉三男	忠吉	5	
4-004	忠吉二男	半蔵	3	
5-005	忠吉四男	かん	16	
6-006	たか養女	ふり	10	
7-007	ふり入主	忠吉養門	10	
8-008	忠吉養門三男	忠太郎	10	
9-009	忠吉養門二女	けん	5	
10-010	忠吉養門三男	甚吉	3	壬子月、出生
11-011	忠吉婿	三州郎	16	
12-012	忠吉婿	半助	15	
13-013	下女	ゆう	14	西より、補注国領原郡新島古町与養親、
14-014	下女	きよ	16	当下町九郎、娘ヨリ、養物

合計: 14 人内 男 5 人 女 9 人

スライド9 宗門帳入力(日文研) プログラム

The screenshot shows the BDS input program interface. It features a menu bar at the top with options like 'ファイル', '編集', '表示', '検索', 'ツール', 'データ', 'ウィンドウ', 'ヘルプ', and 'About'. Below the menu is a toolbar with icons for file operations, editing, and data management. The main area is a large grid with columns labeled 1-001 through 1-010. The rows represent different data entries. On the right side, there are several checkboxes and labels for data validation and display options. The status bar at the bottom shows the current file name and some system information.

スライド10 入力プログラムのBDS画面

The screenshot shows a Microsoft Excel spreadsheet with a table of data. The table has columns for 'No.', '氏名', '性別', '年齢', '住所', '職業', '学歴', '収入', '支出', '資産', '負債', and 'その他'. The data is organized into rows, with some cells highlighted in blue. The table is titled '表形式 (CSV ファイル) で出力'.

No.	氏名	性別	年齢	住所	職業	学歴	収入	支出	資産	負債	その他
1	町村名	男	20	東京都山手区	学生	大学	1000000	500000	1000000	0	1000000
2	町村名	女	21	東京都山手区	学生	大学	1000000	500000	1000000	0	1000000
3	町村名	男	22	東京都山手区	学生	大学	1000000	500000	1000000	0	1000000
4	町村名	女	23	東京都山手区	学生	大学	1000000	500000	1000000	0	1000000
5	町村名	男	24	東京都山手区	学生	大学	1000000	500000	1000000	0	1000000
6	町村名	女	25	東京都山手区	学生	大学	1000000	500000	1000000	0	1000000
7	町村名	男	26	東京都山手区	学生	大学	1000000	500000	1000000	0	1000000
8	町村名	女	27	東京都山手区	学生	大学	1000000	500000	1000000	0	1000000
9	町村名	男	28	東京都山手区	学生	大学	1000000	500000	1000000	0	1000000
10	町村名	女	29	東京都山手区	学生	大学	1000000	500000	1000000	0	1000000
11	町村名	男	30	東京都山手区	学生	大学	1000000	500000	1000000	0	1000000
12	町村名	女	31	東京都山手区	学生	大学	1000000	500000	1000000	0	1000000
13	町村名	男	32	東京都山手区	学生	大学	1000000	500000	1000000	0	1000000
14	町村名	女	33	東京都山手区	学生	大学	1000000	500000	1000000	0	1000000
15	町村名	男	34	東京都山手区	学生	大学	1000000	500000	1000000	0	1000000
16	町村名	女	35	東京都山手区	学生	大学	1000000	500000	1000000	0	1000000
17	町村名	男	36	東京都山手区	学生	大学	1000000	500000	1000000	0	1000000
18	町村名	女	37	東京都山手区	学生	大学	1000000	500000	1000000	0	1000000
19	町村名	男	38	東京都山手区	学生	大学	1000000	500000	1000000	0	1000000
20	町村名	女	39	東京都山手区	学生	大学	1000000	500000	1000000	0	1000000
21	町村名	男	40	東京都山手区	学生	大学	1000000	500000	1000000	0	1000000

スライド11 表形式 (CSV ファイル) で出力

に、例えば 1700 年に 5 歳で出てきたのに、1701 年には 4 歳に減ってしまうとか、同じ 5 歳になってしまうとか、そのようないろいろな不整合もございます。が、とりあえずこの入力プログラムというのを使って、入力してまいります。

さて、スライド 9 からは、入力プログラムの実際です。ここでは宗門帳入力プログラム、速水先生が国際日本文化研究センター（日文研）にいらっしゃるときに作られたので、「日文研プログラム」と言うのが正式なのでしょうか？ 今、首をかしげてらっしゃった方がいますが、一応、このような名前でご本日はお話いたします。入力画面は、宗門帳あるいは人別帳と同じようになっています。細かくて、この名前とか年齢というのはご覧になれないかと思いますが、お手元の資料にも同じように印刷してありますので、そちらをご覧いただくとうよろしいかと思いますが。このように入れていくわけです。例えば、ここに「越後国蒲原郡新潟古町から来た」というような話が出ています。

これを入れていきますと、スライド 10 の画面では B D S と同じように見ることができる、「B D S 画面」になります。さらに、この B D S の画面を作って元の史料と整合性をチェックしまして、スライド 11 のように、出力することができます。このプログラムは、いわゆる表計算の Excel 上で簡単に見られるような出力ができるようになっています。ですから、このようにしてファイルを作成しまして、これをデータベースにするわけです。データベースにするというのは、簡単なようで、意外とそれほど簡単ではないのです。スライド 12 に示しましたが、今できているデータベースには、先ほどから話をさせていただいているように、横断面（単年度）型というのと長期時系列型がございます。

単年度型というのは、龍馬が生きていた時代ということで「龍馬型」で、多摩、そのほか、この次の浜野報告で京都の事例を、この単年データで見ることができます。単年データと申しましても、いろいろな統計的な手法を多く用いることによって、時系列的なデータのようにして使うことも可能です。

それから、こちら長期時系列データのほうは、「ザビエル型」と呼んでいます。フランシスコ・ザビエルが日本に来たことによって、宗門改めが始まったので、そのお名前をちょうだいしているという形です。これは、現在の福島県、陸奥国二本松藩領などで使われていますが、今日の最後にあります黒須報告では、この時系列的なデータを使って、どのようなことが分かるのだろうかという話をいただきます。

それで、統計処理を経て人口指標を作成していくわけです。スライド 13 は、「人口ピラミッド」です。こ

- 単年度データ

- RYOMA 型 — 多摩など

浜野報告(京都の事例)

- 長期時系列データ

- XAVIER 型 — 二本松藩 (現在福島県) など

黒須報告

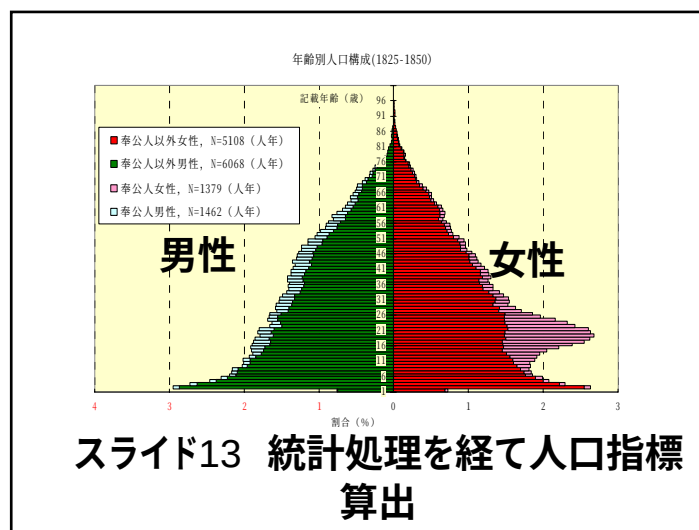
スライド12 データベース作成

これは、視覚的にわかりやすいというので出してあります。人口ピラミッドは現在も作られていますから、ご覧になったことはあるかと思います。速水先生が先ほど「日本の史料の素晴らしさというのは、率が出るのだ」と言われたかと思うのですが、その地域、村に住んでいる全人口が、おおよそ分かるということで、このような人口ピラミッドができるわけです。例えば、これは郡山という町場です。宿場町の人口ピラミッドなので、この女性の部分だけ、やたらと飛び出しています。奉公に来ているのがこれだけいるということが、すぐ見て分かるようになります。

さて、いよいよ、研究成果です。スライド 14 をご覧下さい。多くの人口史料が計算されるわけです。現住人口や出生数が分かります。出生数に関しては、もちろん史料に記載されておらず、つかめない部分もあるわけですが。

二本松藩というところは、かなり精度の高い人口指標を作ろうとしているようです。人口減少が起こっていて、それに対して何とか対応しようということで、出生の調査、墮胎とか間引きなどがないように、あるいは、たくさんの出生があるようにというのか、とにかく、かなり細かく書いてあります。例えば、普通、人別調べは 1 年に 1 回行われるので、ある年に調査が行われてから次の調査が行われる前に、生まれて死んでしまった人は書かれないのではないだろうかと思うわけですが、その間に生まれて死んだ人も書いてあることが、かなりあります。他にも、死亡、結婚、離婚、再婚、養子、移動というようなデータが分かります。

そして、速水先生をはじめとする、いろいろな方の研究成果から、近世日本の人口に関しては地域差が大きかったということが分かっています。例えば、スライド 14 に示しましたように、東北日本では早婚であったのに、中央日本ではその真ん中ぐら



- 多くの人口指標が計算される
 - 現住人口・出生・死亡・結婚・離婚・再婚・養子・移動
- 地域差が大きかった——例えば、初婚年齢
 - 東北日本：早婚（男性20.8歳、女性16.7歳）
 - 中央日本：中庸（男性28.8歳、女性22.5歳）
 - 西南日本：晩婚（男性31.1歳、女性25.3歳）
- 通念との相違が明らかになる
 - 例えば「昔は子どもが多かった」というが、近世までさかのぼると、意外に生存子ども数は少なく、跡取りを確保することさえままならないこともあった。

スライド14 研究成果

い、西南日本では晩婚であったと言いますが、これも、データとして出すとこのようになります。地域差はどうして生じるのだろうか、その背景にある文化は一体何なのだろうかという、いろいろなことが疑問として出てくるわけです。

それから、よく話をしていると、「昔は子供が多かった。今は少なくなって大変だ」とおっしゃる方がかなりいらっしゃるのですが、実際問題、「昔」というのはすごくあいまいな表現です。例えば、そのときに言われる「昔」というのは、自分のおじいちゃん、おばあちゃんぐらいの、そのぐらいの昔、ある程度距離感がつかめる昔だと思うのですが、近世――過去にちょっと遡れば、すぐ近世なのですけれども――におきまして、意外に思われるかもしれませんが、東北地方は子供が少ないのです。もちろん、産んでいる子供が少ないかどうかはともかく、生存子供数、「生まれて、そのまま家にいて大人になって、跡を継ぐ」というようなことまでできるような子供、つまり跡取りを確保することが難しい、というような場合もありました。そのようなことが分かるわけです。

最後に、歴史人口学の魅力をお話ししまして、浜野先生のご報告に引き継いでいただきたいと思います。歴史人口学の魅力ですが、歴史を通じて見ることにより、現代の人口問題への示唆が得られます。例えば、「少子化問題が決して新しい問題ではない」ということが分かります。近世の人々はそれにどのように対応していたのだろうか、近世の人々はどうのように考えていたのだろうか。もちろん、それがすぐに現代に適用できるという話ではないのですが、いろいろなことを考えるうえで、そのような知識を得られるということは素晴らしいことです。現代の問題にすぐに応用できなくても、私たちがずっと引き継いできております人々の生活史・人口史というものを知るということは、かなり魅力があるのではないかと思います。

また、現代でも得られない人口変数から、長期的に人口と経済社会の問題や、あるいは家族の問題を考えることができます。さらに、多分、黒須先生の報告で出てくるのではないかと思います。国際比較をかなりやっています。日本は特殊かということ、意外とそうでもありません。例えば、日本とイタリアでは似た部分があったのではないかな、というようにも分かると思います。

この後、少々休憩時間がございますので、今の報告は一体何だったのだろうか、という方は、ぜひ、展示のほうをご覧くださいたく存じます。今日は、本当にたくさんの方においでいただいて、大変嬉しく存じます。どうも有難うございました。